

## インプラント埋入におけるデジタル技術の応用

現代的なインプラント治療が臨床応用されるようになってから約50年経過してきており予知性の高い処置として広く利用されています。当初、インプラントの埋入位置の決定は、残存する歯槽骨の骨量、骨形態などの解剖学的な条件に依存する形で行われておりましたが、次第に補綴物を基準とした埋入位置を設定する治療概念 (Top Down Treatment Planning) が定着、普及している。近年のインプラント治療は外科及び補綴的な治療計画作成、施術に関して、術前診査に関する画像情報と治療計画作成用ソフトウェアを統合した技術 (Image Guided Surgery) を利用することが次第に浸透しつつある。この背景には CT による画像診断技術が広く普及し、専用のソフトウェアの発達によってインプラント治療をコンピューター上で治療の診査／診断／シミュレーションが正確に行うことが可能になってきているためである。本プレゼンテーションでは Image Guided Surgery における治療計画作成、臨床の適応についてお話をさせていただきます。

藤本 浩平

アメリカ歯周病学会認定歯周病

インプラント専門医 (Diplomate, American Board of Periodontology)

日本臨床歯周病学会常任理事